

中学校社会科歴史的分野における人物学習の実践

－北条政子と封建社会の成立－

大江 和彦

中学校1年生は、歴史に関してどれほどの知識を持っているのか。これまで半年あまり授業を実施してみて、小学校段階の学習内容をある程度知ることができた。手っ取り早くいえば、年代や事項の丸暗記に徹しているのである。歴史に興味がある生徒は、自分からすすんで図書室の小説や漫画などの本を借りるなどしてそれなりの知識を身につけているが、それ以外の生徒は必要最低限の知識しか持たない。1192年に鎌倉幕府が成立したことを、「いいくにつくろう鎌倉幕府」と語呂合わせで覚えているに過ぎないのである。この現実をふまえた上で、中学校段階の歴史学習を展開するためには、生徒に「歴史を知っている」ことは「歴史を理解している」ということではないことを改めて認識させる必要がある。

そのためには、1) 論理的に物事が説明できること、2) 具体的な資料に基づいて科学的な思考ができることが必要であると考える。具体的な資料をどう解釈し、どう論理を組み立てていくと誰もが納得できる説明ができるのか、これができることが「歴史を理解する」という事になる。

今回の授業構成案では、具体的な事象の分析を元に情報を入手し、「必然の論理」のモデルを学ぶことができる授業を提示することを目指した。

1. 問題の所在

現行の学習指導要領の理念である「生きる力」は、新学習指導要領でも引き継がれる。「生きる力」は、『基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力』のことである。各教科における内容や内容の取り扱いにおいても、この理念は貫かれているが、「改訂のポイント」では、「生きる力」の意味や必要性についての共通理解をより一層求めている。

新学習指導要領中学校社会科歴史的分野においては、
1 目標 (1) に続き、(2) では、「国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。」とあり、さらに、
2 内容 の(1) 歴史のとらえ方では、「ア 我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動を通して、時代の区分やその移り変わりに気付かせ、歴史を学ぶ意欲を高めるとともに、年代の表し方や時代区分についての基本的な内容を理解させる。」と規定し、人物学習を通じ、「生きる力」の理念としてあげている『思考力・判断力・表現力の育成』と『学習意欲の向上』を実現しようとしている。

一方、小学校学習指導要領においては、次の4 2人を人物学習の例として挙げしている。

卑弥呼、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言、

平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟、ザビエル、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、徳川家光、近松門左衛門、歌川(安藤)広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬、ペリー、勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、明治天皇、福沢諭吉、大隈重信、板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世

これらの人物は、一概に分野別に分類することはできないが、一見してわかることは女性が圧倒的に少ないことである。特に、平安時代の紫式部・清少納言以降は皆無である。貴族社会の成立に重要な役割を果たした招婿婚制度は、平安時代から鎌倉時代にかけて次第に衰退していったが、鎌倉時代初めの武士社会にも、貴族社会の名残である招婿婚は厳然として存在し、時代の転換点において重要な意味を持った。また、女性の社会的権利の上昇の代名詞として女性の地頭が存在したことは広く知られていることであるが、なぜ女性の権利が上昇したのかを説明する授業はほとんど無い。

今回の授業構成においては、小学校学習指導要領で示された人物学習を一步進め、①貴族社会である平安時代から武士社会である鎌倉時代へという時代の転換点に生きた人物、②女性の権利向上に大きく貢献した人物、という2つの観点から、「封建社会の成立と発展」というテーマに最も適した人物として北条政子を取りあげること、人物学習の新しい視点を示すことができると考えている。

2. 中学校社会科歴史的分野における 人物学習と北条政子の位置づけ

中学校学習指導要領解説 社会編 第2章 第2節
歴史的分野 2内容 (3) 中世の日本 では、

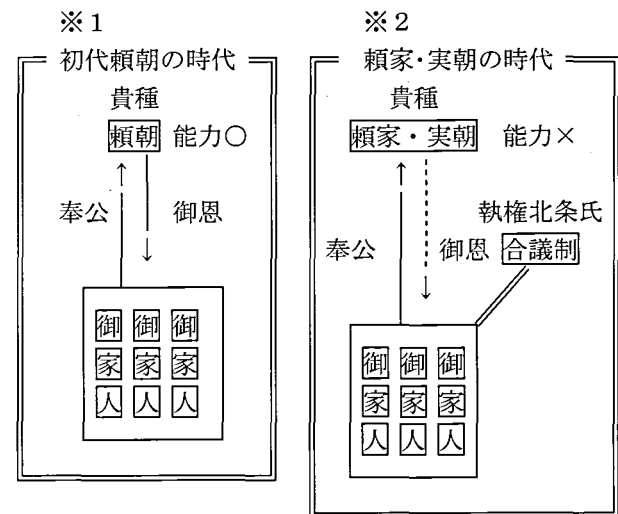
「ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。」とある。さらに、3 内容の取扱い では、
「(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物に対する生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連付けて考察させるようにすること。…」(2) 内容の (1) については、次のとおり取り扱うものとする。ア アについては、中学校の歴史学習の導入として実施することを原則とすること。小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動の仕方を工夫して、「時代の区分やその移り変わり」に気付かせるようにすること。(4) 内容の (3) については、次のとおり取り扱うものとする。ア …「武家政治の特色」については、主従の結び付きや武力を背景にして次第にその支配を広げていったことなど、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。」とある。

つまり、人物学習は、小学校での学習を踏まえ、中学校の歴史学習の導入として生徒の興味・関心を喚起しながらその人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連づけて考察させ、時代の区分やその移り変わりに気づかせるように指導するため存在していると考察できる。これを、本授業構成の趣旨をふまえて、「北条政子という人物の生き方の学習を通じ、貴族社会としての平安時代から武士社会としての鎌倉時代への歴史の転換点において果たした役割を考察し、封建社会に関する基本的知識の理解と生徒の思考力・判断力を育成する」と言い換えることができる。

3. 教材観

武士の時代の始まりは、1185年という説が有力である。それは、全国の国ごとに守護、荘園・国衙領ごとに地頭を設置できるようになったからである。では、なぜ設置できるようになったのか。鎌倉幕府の成立は、1192年といわれる。それは、源頼朝が征夷大将軍に就任したから

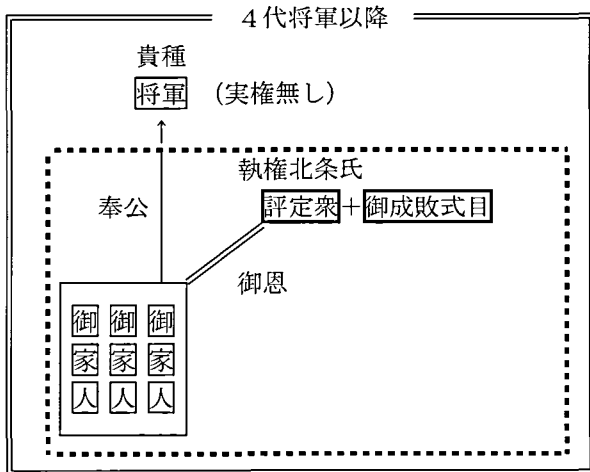
である。では、なぜ征夷大将軍になることができたのか。「守護・地頭が設置され、武家社会の棟梁が征夷大将軍に任命される」…このことが中世封建社会の成立において非常に大きな意味を持っていることは否定できない。また一方で、武家社会の棟梁が征夷大将軍となり、それを主と仰ぐ武士が集結する。土地を媒体にして御恩と奉公でつながれた主従関係（封建制度）の始まりである。また、守護や地頭として派遣された御家人たちは、現地での警察業務・徴税業務・運搬業務を請け負う、軍事的任務を主とする軍政政権の一員である。このように、制度・組織・機能の各面から鎌倉幕府を見ると、解釈によって成立年代が変わるのであるから一向に差し支えない。しかし、源氏将軍は、その祖先をさかのぼると清和天皇にまでどり着く「元皇族」＝「貴種」であり、武家社会の頂点に君臨する将軍が皇族出身という根本的矛盾を抱えていたのである。多分に貴族的性格を色濃く持つ源氏将軍のうち、初代頼朝は「貴種」であってもその矛盾を表面化させない「能力」を兼ね備えていたために問題が起きなかった(※1)が、2代・3代将軍は「能力」より「貴種」がクローズアップされ、幕府の中で実権を掌握したい有力御家人に利用されやすい存在だったのである(※2)。つまり、頼朝死後の源氏将軍は、幕府にとって非常に都合の悪い存在となった。



そこで北条政子は、妻として・母として・祖母としての個人の悲しみの感情を乗り越え、「将軍の傀儡化」(※3)という方法で幕府のピンチを切り抜けたばかりか、新たに純粋な武家政権を構築し、強固な封建社会を築き上げることに成功したのである。つまり、北条政子が、新たに生まれ変わる幕府の生みの親になったのである。

本時では、時代の転換期における政治家として北条政子を取り上げる。

※3



4. 評価基準

ア	社会的事象への関心・意欲・態度	歴史的事象の内容を、興味を持って主体的に知ることができる
イ	社会的な思考・判断	社会的・時代的背景をふまえた上で、歴史人物の行動の意味を思考・判断できる
ウ	資料活用の表現・技能	具体的な資料を読解し、その分析と解釈を自分の言葉で表現できる
エ	社会的事象についての知識・理解	歴史的事象の内容を、それぞれの立場ごとに異なる意味を持つ内容として理解できる

7. 授業構成案+資料+授業プリント

	発問等	教授・学習過程	資料	習得させたい知識	留意点
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 資料①を見てください。源頼朝を初代とする鎌倉幕府の歴代将軍9人それぞれの人生を表にしています。 ○この表を見て気づくことは何? 初代から三代までの共通点は? (ヒント…将軍の氏名) 四代と五代の共通点は? (ヒント…将軍の氏名) 六代から九代までの共通点は? (ヒント…将軍の氏名) 三代将軍源実朝以降の共通点は? (ヒント…将軍就任時の年齢) 四代～八代までの共通点は? 	<ul style="list-style-type: none"> T. 発問する T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 説明する T. 発問する S. 答える T. 発問する 	①	<ul style="list-style-type: none"> 初代～三代は源氏の将軍(源氏将軍)である。 四代・五代は藤原氏出身の将軍(摂家将軍)である。 六～九代将軍は皇族出身の将軍(親王将軍)である。 ○鎌倉幕府の9人の将軍は、出身によって3つの時期に分類することができる。 三代将軍以降の将軍は、ほとんどが幼少で将軍に就任している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料プリント・学習プリント配布 プリント記入

5. 単元計画

「中世封建社会の成立と発展」(全8時間)

鎌倉幕府の成立(2時間)

平清盛と後白河法皇 … 1時間

源平の争乱と鎌倉幕府の成立 … 1時間

執権政治の確立(3時間)

源氏将軍の断絶と承久の乱 … 1時間(本時)

御成敗式目と武士の生活 … 1時間

鎌倉時代の産業と経済 … 1時間

得宗専制体制と鎌倉幕府の滅亡(3時間)

元寇と得宗専制体制 … 1時間

鎌倉幕府の滅亡 … 1時間

鎌倉時代の文化 … 1時間

6. 授業のねらい

大目標 北条氏は、鎌倉幕府将軍の傀儡化を通じてより強固な封建社会を構築したことを理解する。

- ① 鎌倉時代初めの源氏男子はいずれも短命であり、特に将軍の死亡は幕府に存続の危機をもたらしたことを理解する。
- ② 「能力」のない「貴種」将軍は、御家人の支持を得ることができなかったことを理解する。
- ③ 将軍交代には北条政子の強い意志が働いており、北条氏は御家人の支持を得る政治を行う限り、鎌倉幕府という組織の維持と発展の中心に座り続けることができたことを理解する。

	(ヒント…将軍辞任時と死亡年齢) ○鎌倉幕府の歴代将軍は、なぜ幼少で就任し、しかも働き盛りの年齢で辞任しているのでしょうか ◎将軍の役割の変化は、鎌倉幕府にとってどのような意味があるのか	S. 答える T. 説明する T. 発問する S. 考える T. 発問する S. 考える	・四代～八代将軍は死亡した時に将軍ではなかった。 ○鎌倉時代の源氏将軍以降は、幼少で将軍に就任し、9代以外死ぬまで将軍をつとめた将軍はいない。 ・誰を将軍にするか、いつ将軍にするか、いつ辞任するかなど、将軍以外の意志が働いている可能性があり、そうすることが、幕府や幕府の誰かにとって都合のよいことであった可能性がある。	本時の主題の確認
展開① 12分	源頼朝は、北条政子の… 源頼家は、北条政子の… 源一幡は、北条政子の… 源実朝は、北条政子の… 公暁は、北条政子の… 北条時政は、北条政子の… 北条義時は、北条政子の… 北条泰時は、北条政子の…	T. 発問する T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える	A ○幼い将軍が即位するようになったのは3代実朝の時からです。源氏将軍を例にして将軍の役割の変化を考えてみましょう。 ・資料Aの系図を見てください。源氏と北条氏を結びつけているのは北条政子なので、政子を中心に人間関係を確認します。 ・夫 ・子 (長男) ・孫 ・子 (次男) ・孫 ・父 ・弟 ・甥	ウ 簡潔に発問する
展開① 12分	・資料②の表のそれぞれの人物が生まれてから死ぬまでを直線で表してみよう。 ・人生の長さを線で引き、人間関係を確認し、何がわかりましたか？ ・源氏一族は、どのようにして亡くなったのでしょうか。資料Aの系図に、これから述べる事件で命を落とした人物を二重線を引いて消してみましょう。 ・北条政子は、自分の子や孫が暗殺されてどう思ったでしょう。 ・2代・3代将軍が暗殺されるというこれらの事件は、幕府にとってどのような意義があったのでしょうか。 ・将軍候補者がいないことは、なぜ幕府にとって大問題なのでしょう。 ○これらの事件の後、幕府はいったいどうなってしまったのだろう	T. 指示する S. 作業する T. 発問する S. 答える T. 指示する T. 説明する S. 作業する T. 説明する T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える T. 発問する S. 答える	② A ・北条一族に比べ、源氏一族は短命である ・1203年、二代将軍源頼家の子源一幡は、祖父である比企能員、その娘で母である若狭局とともに襲われ焼死した。 ・翌年、伊豆国修禅寺に幽閉されていた元二代将軍源頼家は突然軍勢に襲われ、斬り殺された。 ・1219年、鎌倉にある鶴岡八幡宮から自宅に帰る途中、三代将軍源実朝は甥の公暁に短刀で刺されて首を奪われ、将軍を殺した公暁も殺された。 ○北条政子は、自分が生きている間に、自分の夫、自分の2人の子、そして2人の孫を失っている。 ・悲しい。 ・これらの事件で、源頼朝の男子の子孫は断絶し、将軍の候補者がいなくなりました。 ・将軍がいなければ幕府が開けないから	ウ ア
	○北条政子は身内として、自分の子や孫が殺されるのを阻止できなかったのか。 ・頼朝の死後、22歳で亡くなった2代将	T. 発問する		

展 開 ② 12 分	<ul style="list-style-type: none"> 軍源頼家、27歳で亡くなった3代将軍源実朝について考えてみましょう。 第2代将軍源頼家は、20歳で将軍になっていますが、源頼朝の死後、源頼家の将軍就任まで3年間の空白があるのはなぜでしょう。 第2代将軍源頼家は21歳で将軍を辞めさせられ、22歳で暗殺されています。源頼家は、どのような将軍だったのでしょうか。 御家人は、この将軍をどう思ったか その結果、将軍頼家はどうなったのか 源頼家から将軍職を剥奪したのは誰？ 源頼家は誰に殺されたのでしょうか 北条政子は身内として、子や孫が殺されるのを防止できなかったのか 	<p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 考える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える T. 説明する</p> <p>S. 考える S. 考える T. 発問する S. 考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> 頼家が将軍としての資格があるかどうかを、御家人みんなで考える時間が必要だった。 資料③から考えてみましょう。 一方的に命令する、公平に恩賞をくれない将軍 自分たちの気持ちをわかってくれない将軍 ○源頼家は、「御家人の期待に応えない」将軍だった。 (妻の実家比企氏を重用) 在職わずか1年で将軍を辞めさせられ、伊豆のお寺に幽閉(閉じ込めて外に出さない)された。 さらに、前年には自分の妻と子と妻の父が殺され、自分自身も暗殺された。 ??? ??? ??? 	<p>ウ・エ</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 第3代将軍源実朝は、11歳で将軍になっていますが、27歳で将軍のまま甥の公暁に暗殺されました。源実朝は、どんな将軍だったのでしょうか 御家人は、この将軍をどう思ったか 実朝には、女性の他に一生懸命になったものがあつた。それは何か。 若い実朝がこれだけ早く出世し、和歌集まで出せたのはなぜか。 後鳥羽上皇にとって鎌倉幕府3代将軍源実朝は、どんな存在だったか 一方、御家人にとって鎌倉幕府3代将軍源実朝は、どんな存在だったか 1219年、源実朝の身に起こった事件とは、どんな事件だったのでしょうか なぜ実朝が公暁の「親の敵」なのか 本当はそうでないのにそう教え込んだのは誰か この事件が起こった結果どうなったか 	<p>T. 発問する S. 考える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p> <p>T. 発問する S. 答える T. 発問する T. 説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料④から考えてみましょう 幕府のために正しいと思ってしたことを認めてくれない、御家人の言うことよりも周りの女性の言うことを信じる、公平に恩賞をくれない(自分たちの願いをかなえてくれない)将軍 ○源実朝は、「御家人の期待に応えない」将軍だった。 朝廷における官位昇進と自作の和歌の編集 実朝は、官職で右大臣・左近衛大将(頼朝は権大納言・右近衛大将)に出世し、父を超えた。 1213年、わずか21歳で「金槐和歌集」という単独の和歌集を編纂した。この和歌集は、万葉調の素朴で力強い作風の歌集として高く評価されている。 朝廷で院政を行っていた後鳥羽上皇が、実朝の要求通りに官位を与え、和歌の添削をしていたから。 自分を頼りにし、慕ってくれる弟分のようなもの 自分たち御家人ではなく、朝廷ばかりを気にして生きている将軍 右大臣就任の一ヶ月後、実朝は鶴岡八幡宮で甥の公暁に刺殺され、首を奪われた。(公暁は暗殺の際、「親の敵はこう討つのだ!」と叫んだらしい。 公暁は、実朝が3代将軍に就任したいがために兄一幡と父頼家を暗殺したと教えられていたから。 (源実朝死後は、正義を貫いた自分が4代将軍に就任できると信じていたという説もある。) ? 公暁も将軍暗殺者として誅殺され、源氏男子の血統がここに絶えた。 	<p>ウ・エ</p> <p>エ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・公暁は誰に殺されたのか ・北条政子は身内として、子や孫が殺されるのを阻止できなかったのか 	<p>T. 発問する S. 考える</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ??? ・ ??? 		
展開③ 16分	<p>○資料Aの系図に戻りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頼家だけではなく、頼家の妻や子や妻の父まで殺さなくてもよかったのに…と思いませんか？次の質問に答えながら、誰が彼らを滅ぼしたのかを考えましょう。 ・頼家は誰に将軍を嗣がせるつもりだったのでしょうか。 ・一幡が将軍に就任すると一幡の外祖父は誰になるのでしょうか。 ・実際に3代将軍には誰が嗣いだでしょうか。 ・源一幡・比企能員・若狭局がいなくなり、源実朝が将軍に就任すると都合がいい人は誰でしょうか。 	<p>T. 発問する</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・嫡子源一幡。 ・比企能員。 ・頼家の弟である源実朝(千幡)。〈ヒント…外戚〉 ・北条氏(北条時政) ・北条氏は、源頼家と源実朝の外戚であり、この2人が将軍である時は外戚として権力をふるえるが、もし一幡が将軍になると外戚が比企氏となり、権力が比企氏に奪われる可能性がある。だから自分たちの権力維持の邪魔になる比企氏と頼家の妻と子を殺害し、さらに他の氏族に利用されやすい弱い将軍(頼家)を抹殺したと考えられている。 ・北条政子 ・北条氏は、御家人たちが望んでいたことをきちんと行い、多くの御家人から支持されていたから。 	ア・エ
	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が頼家の将軍職を奪って実朝を将軍にすえたのか ・でも、これだけでは、北条氏が幕府内での権力を握りたいために将軍の首を取り替えたことになりませんか？北条氏は将軍を殺したのに、なぜ他の御家人たちから反発を受けなかったのか ・「御家人が望んでいたこと」とは何か。 	<p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p>	⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが納得する「公平な裁判」と「働きによって土地をくれる(新恩給与)・「先祖伝来の土地の所有権を保障する(本領安堵)」…これを「封建制度」という。 ・幕府創立からの有力御家人13人による合議体制を確立し、この会議の議長(執権)として、常に御家人の利益を最優先する政治を行った。 	ウ・エ
	<ul style="list-style-type: none"> ・どうやって御家人の支持を得たのか 	<p>T. 発問する S. 答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・三浦氏。実は、北条氏が三浦氏と共謀して2人を殺したともいわれている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・公暁を将軍暗殺者に仕立て上げ、公暁までも殺してしまったのは誰か。 	<p>T. 発問する T. 説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・1218年(実朝が亡くなる前年)、北条政子は京都に行き、朝廷と四代将軍について話し合いをした。 	イ・ウ
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料Bを見てください。 	<p>T. 説明する</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実際、北条政子は藤原兼子の案に賛成している。 ・北条政子は、四代目以降の将軍は自分の子でなくてもいいと思っており、実際、四代目の将軍には、源氏出身でない人物が就任している。 	
	<p>○北条政子は4代将軍に後鳥羽上皇の子を迎える案について反対したか、賛成したか。どちらかに○をつけなさい。</p>	<p>T. 指示する S. 答える T. 説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・北条政子は、自分の子や孫が殺されるのを阻止するどころか、「能力」のない源氏の血をひく「貴種」の将軍が存在することが幕府や御家人のためにならないと考え、悲しみをこらえて黙って見ていた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・北条政子は身内として、自分の子や孫が殺されるのを阻止できなかったのか 	<p>T. 発問する T. 説明する</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「尼将軍どの(北条政子)は、自分の子や孫の死と引き替えに、自分たち御家人の利益を最優先してくれた立派な方だ。」 ・個人の感情より組織の維持と存続の優先を考えた。 ・源氏将軍がいなくなり、幕府を滅ぼすチャンスと考えた後鳥羽上皇は、頼仁親王の鎌倉下向を拒否 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・北条政子に対する御家人の評価はどうなったか 	<p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 説明する T. 説明する</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・この戦いを何というか ・幕府存続の危機ともいえるこの時、動揺する御家人を大演説でまとめたのは誰か。 ・なぜ北条義時が演説をしなかったのか 	<p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p>	<p>し、「北条義時を討て」という命令を全国に出し、倒幕の兵を挙げた。</p> <p>・承久の乱</p> <p>・尼将軍北条政子</p> <p>⑥ 「幕府が誰によって創立されたか、幕府創設によってどれほどの恩を頼朝から受けたのか、思い出してみなさい。その恩は山よりも高く海よりも深い！幕府を守り抜け！」と叫ぶためには、演説者は義時ではなく、幕府を作った意味・将軍と御家人との関係のあるべき姿を誰よりも知っている政子でなければならなかった。</p>	<p>エ</p> <p>ウ</p>
<p>終 結 5 分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府成立以前の武士は、どんな生活をしてきたか ・鎌倉幕府が成立して、武士の生活はどう変わったか ・初代将軍源頼朝は御家人にとってどんな存在だったか ・源氏将軍には、どんな問題があったか。 ・それならいっそのこと、どうすればいいのでしょうか ・では、誰が幕府の政治を行うの？ ・どんな政治をするの？ ・「御家人の願い」とは何か ・承久の乱後、幕府はどうなったか ・資料Aをみて、生き残ったのは誰か。 ・泰時は、叔母と父の死後、幕府存続と発展のため、2つの大事なことをしている。それは何か。 ・北条政子は、鎌倉幕府の歴史において、どのような役割を果たしたか。 	<p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 発問する S. 答える</p> <p>T. 説明する</p> <p>T. 発問する T. 説明する</p>	<p>・公家たちの権力争いの道具として、都合よく使われていた。</p> <p>・将軍と主従関係を結び御家人になれば、奉公に応じて身分や出身を問わず御恩をもらえるようになった。</p> <p>・そのまとめ役として、尊敬を集める「貴種」であり、公平に裁定できる「能力」を兼ね備えた源頼朝は、理想的な将軍だった。</p> <p>・しかし、頼朝の死後、将軍暗殺事件が連続して発生し、幕府は大きく動揺した。</p> <p>・貴族出身の武家だったため、「能力」のない「貴種」が政治の実権を握ると他人に利用されたり判断を誤る可能性があった。</p> <p>・将軍は、御家人と主従関係を結ぶだけのシンボルとしての将軍であればよい。つまり、「実権を持たない」「貴種」であればよい。</p> <p>○将軍は、幼少の時に将軍に就任させ、成人して自分の意志を持つようになると京都に帰らせることの繰り返し。</p> <p>・執権北条氏を中心とする有力者会議</p> <p>・御家人の願いを常にかねえることができる政治。</p> <p>・働きに応じて公平に土地を与えてくれること これを守る限り御家人は北条氏を信じ続ける。</p> <p>・北条義時は1224年、北条政子は1225年にこの世を去った。</p> <p>A</p> <p>・3代執権北条泰時。</p> <p>・1225年、「評定衆」をつくって合議制を正式に制度化した。</p> <p>・執権や評定衆のメンバーが替わっても安定した政治を行えるよう、1232年、武家社会に通用する成文法「御成敗式目」を制定した。</p> <p>・北条政子は、幕府の絶体絶命のピンチをより強固な封建制をもとにした幕府にするチャンスに変え、純粋な武家政権に生まれ変わらせた政治家であった。</p>	<p>イ・エ</p>

資料の出典

- A・①・②・⑤…年表を元に授業者が作成
- ③・④・⑥…「吾妻鏡」の記事をもとに趣旨を変えない限りに授業者が作成
- B…「明月記」の記事をもとに趣旨を変えない限りに授業者が作成

資料① 鎌倉幕府歴代将軍は、いつ(何歳で)将軍に就任し、いつ(何歳で)辞任しているか

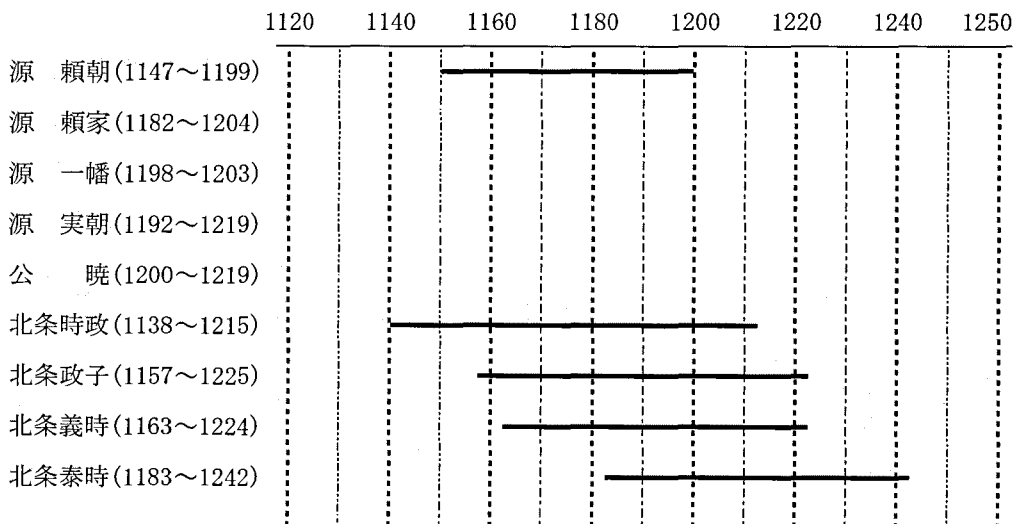
		生年 没年	将軍に就任した年	将軍でなくなった年	死亡時の年齢	
初代	源頼朝	1147年～1199年	1192年 45歳	1199年 52歳	52歳	() 将軍
3年間の空白期						
2代	源頼家	1182年～1204年	1202年 20歳	1203年 21歳	22歳	
3代	源実朝	1192年～1219年	1203年 11歳	1219年 27歳	27歳	

7年間の空白期

4代	藤原(九条)頼経	1218年～1256年	1226年 8歳	1244年 26歳	38歳	()
5代	藤原(九条)頼嗣	1239年～1256年	1244年 5歳	1252年 13歳	17歳	将軍
6代	宗尊(むねたか)親王	1242年～1274年	1252年 10歳	1266年 26歳	32歳	() 将軍
7代	惟康(これやす)親王	1264年～1326年	1266年 2歳	1289年 25歳	62歳	
8代	久明(ひさあき)親王	1276年～1328年	1289年 13歳	1308年 32歳	52歳	
9代	守邦(もりくに)親王	1301年～1333年	1308年 7歳	1333年 32歳	32歳	

■は、将軍のまま死亡した人物

資料② 北条政子とその周囲の人々(左の人々が生きた時期を線で引いてみよう)



資料③ 訴訟を裁く源頼家

ある日
御家人A 「私が先の合戦で手柄をたてたために頼朝様からいただいた領地が、きみの領地と重なっている。お互い重なっている領地にある牧場を私がもらうから、ここをお互いの領地の境界線にしよう。」
御家人B 「いや、その牧場は私が父から受け継いだものだ。そこにある牧場は私の領地にして、ここをお互いの領地の境界線にしよう。」
御家人A・B 「お互いが主張する領地の境界線が違うよなあ…幕府に訴状を提出して公平に判断してもらって、それに従おう。」

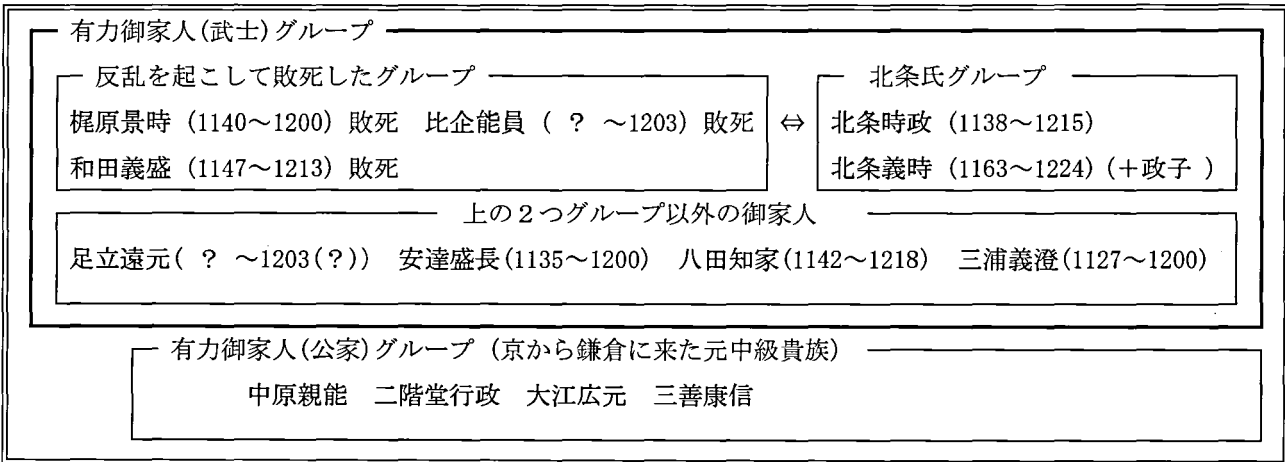
<後日>
側近 「頼家様、領地の境界線でもめている御家人から、訴状が出ておりますが…」
源頼家 「(突然、地図上に直線を引きながら)ここにこう線を引けばよかろう。土地の広い狭いは運次第だ。これからもそのように裁定する。不服ならば次からは訴訟をおこさないことだ。」
側近 「……はっ、そのように申し伝えます…」

<後日>
側近 「このように境界線を引けとのご命令です。」
御家人A・B 「え?……それじゃどちらも納得できないなあ……頼家様は、なぜ境界線問題でもめているか、理由を聞かれましたか?」
側近 「いいえ。突然線をお引きになりました。」
御家人A・B 「……………」

資料④ 畠山重慶の乱の際の源実朝

源実朝 「以前謀反を企てて討たれた畠山重忠の子畠山重慶が謀反を計画しているという情報が入った。長沼宗政よ、生け捕りにして私の前に連れて参れ。」
長沼宗政 「はっ。了解しました。」
<2日後、長沼宗政は畠山重慶の首を切って実朝に届けた。>
源実朝 「畠山重忠は罪もないのに討たれた。その子が謀反を企むことに何の不思議があろうか。私が命じた通りにまず重慶を生け捕って私の目の前に連れてくれば私が罪を決めたであろうに、おまえは重慶の命を奪ってしまった。何が罪かと言えば、おまえが粗忽(そそっかしい、軽はずみ)であることが一番の罪である。長沼宗政よ、今以降、私の前に出ることは許さない。」
長沼宗政 「今回の畠山重慶の謀反は、どう考えても疑いようのないことです。生け捕って連れて来れば、実朝様は、そばに仕える女の言葉を信じて必ずお許しになるに違いないと思ひ、殺して首をさらしたままで。幕府のためになると信じてこのようなことをしたにもかかわらず、今後このようなこと(宗政を責めたこと)があれば、誰も忠節を守ることなどしなくなるでしょう。実朝様は歌や蹴鞠がたいへん上手と聞きます。武芸は廃れてしまったともいえます。女性ばかりを近づけ、將軍である実朝様のまわりには勇士と呼べる者は全くいません。また、御家人から没収した土地は手柄をたてた御家人にあたえられず、その多くは何の手柄もない子どもや女性に与えられています。」

資料⑤ 13人の合議体制(1200～)



尼將軍北条政子は、御家人を集めて言った。

「みんな心を一つにして聞きなさい。これは最後の言葉です。頼朝殿が鎌倉幕府を作って以来、みんなが受け取った官位や俸禄など、**その恩は山よりも高く海よりも深い**はずです。その恩に報いる気持ちが浅いはずはないでしょう。今、朝廷にそむく逆臣と呼ばれ、北条義時を討てという命令が下された。上皇方に味方した武士を討つのです！」

と言った。集まった御家人たちはみな命に応じ、涙を流しながらその恩に報いることを誓った。 『吾妻鏡』

8. おわりに

論文作成にあたり、紙幅の都合により、人物学習の位置づけに続いて、北条政子という具体的な人物の何をどのように学ぶのかについての基本的な考え方を最低限論じた上で、実際に実施した詳細な授業構成案+授業で使った資料+授業で使った学習プリントをできる限り掲載するという方法をとったため、知識の構造図等で明らかにできる授業構成の過程を詳細に示すことができなかったことは非常に残念であるが、別の機会を待ちたいと思う。いろいろな観点からのご批評をいただければ幸いである。

参考文献

- ・安田元久 「北条義時」1986 吉川弘文館
- ・高橋秀樹 「中世の家と性」2004 山川出版社
- ・井上光貞他 「日本歴史大系 2 中世」1985 山川出版社
- ・五味文彦 「体系日本の歴史 5 鎌倉と京」1992 小学館ライブラリー
- ・永原慶二 「日本歴史叢書 日本の中世社会」吉川弘文館

中学校社会科歴史的分野学習プリント 1年()組()番 名前()

鎌倉幕府の将軍の役割の変化は、どのような意味を持つのか

I. 鎌倉幕府の歴代将軍(初代～9代)

初代～3代…()将軍 4代・5代…()将軍 6代～9代…()将軍

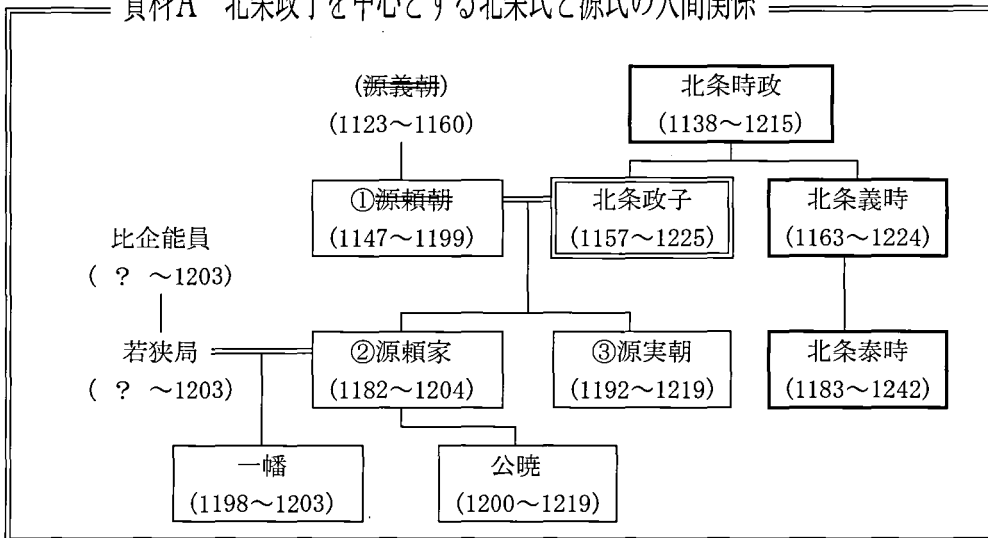
鎌倉幕府の歴代将軍の多くは、子供の頃に就任し、働き盛りで辞任している。

II. 源氏将軍は、わずか3代で終わっている

資料②の登場人物が生きた期間を線で表してみて、何がわかるか？

⇒源氏の男子は、北条氏に比べ、()である。…なぜ短命なの？

資料A 北条政子を中心とする北条氏と源氏の間関係



2代将軍源頼家・3代将軍源実朝は、いずれも暗殺されて死亡した。

⇒源頼朝の男子の子孫は断絶し、将軍候補者がいなくなりました。

北条政子は源氏将軍の身内として、自分の子や孫が殺されるのを阻止できなかったのか？

III. 暗殺された将軍は、どんな将軍だったのか

1) 2代将軍源頼家は、どんな将軍だったのか(資料③から考えよう)

源頼家は、「将軍の命令は()である!」「妻の実家を重く用いて何が悪い!」という将軍だった。

2) 3代将軍源実朝は、どんな将軍だったのか(資料④から考えよう)

源実朝は、「御家人より()が大事!」「私は和歌と出世が何より大事!」という将軍だった。

御家人から見ると、源頼家と源実朝は、()に()を与えてくれない将軍だった。

北条政子は、自分がお腹を痛めて産んだ二人の将軍が暗殺されるのを黙って見ていたのか？

IV. 誰が二人の将軍を殺したのか？

※いくらなんでも、頼家の妻や子や妻の父まで殺さなくても…と思いませんか？

(※いくらなんでも、公暁まで殺さなくても…と思いませんか？)

- ①源頼家は、自分の長男()を次の将軍にしようと考えていた
- ②()が将軍になると、その外祖父は()になる
- ③実際には、3代将軍には()が就任した。

頼家・一幡・比企能員・若狭局が死亡し、実朝が将軍に就任すると都合がいい人は誰？

(実朝も公暁も両方死んで、幕府の実権を掌握できる人は誰?)…< >

・彼らが「将軍殺し」の一族として他の御家人から責められなかったのはなぜ？

13人の合議制の議長()として、

「御家人が望んでいたこと」をきちんと行ったから

- 1. 誰もが納得する公平な()
- 2. 働きに応じて新しい()をくれる(「新恩給与」)
- 3. 先祖伝来の()の所有権を認めてくれる(「本領安堵」)

()を媒体にした主従関係

//

()制度

資料B 1218年7月、京都での会談

北条政子(鎌倉幕府初代将軍の妻、2・3代将軍の母、尼将軍)と
藤原兼子(かねこ)(後鳥羽上皇の乳母・養育係)の会談

藤原兼子…「三代将軍源実朝殿の跡継ぎ(第四代将軍)には、私が養育してきた後鳥羽上皇皇子(冷泉宮頼仁(頼朝)親王)を推薦します。この案についてどうお考えですか？」
さて、この申し出に対し、北条政子はどうか答えたでしょう。どちらかに○を下さい。

北条政子…「大反対です。お断りします。」 OR 「大賛成です。早速手続きを…」

北条政子は源氏将軍の身内として、自分の子や孫が殺されるのを阻止できなかったのか？

…御家人の尊敬を集める「貴種」でありながら「能力」のない将軍が存在する事は、幕府や御家人に動揺をもたらすと考え、()より()を優先する政治を行った。

V. 承久の乱後の将軍の役割

承久の乱後の将軍の条件は「()を持たない」「貴種」となった。ゆえにその後は何もわからない子供の頃に将軍に就任()、働き盛りで辞任()している。

北条義時…1224年、北条政子…1225年に死去…残ったのは誰？

合議制を正式に制度化 … () 設置(1225)

武家社会に通用する成文法… () 制定(1232)

⇒封建制度を基軸とする純粋・強力な武家政権のはじまり